

製品名: ユビキチン D (18015) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe19551**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	UBD
別名	FAT10; UBD-3; GABBR1; UBD; Ubiquitin D;
遺伝子 ID	10537.0
SwissProt ID	O15205
免疫原	ヒトユビキチン D の合成ペプチド

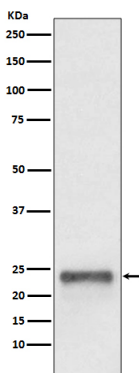
背景

UBD (ユビキチン D) はタンパク質コード遺伝子です。UBDに関連する疾患には、腎硬化症や重症急性呼吸器症候群などがあり、関連するスーパーパスウェイには NF- κ B ファミリーパスウェイや MIF による自然免疫細胞の制御などがあります。この遺伝子に関連する GO アノテーションには、プロテアソーム結合やタンパク質結合などがあります。この遺伝子の重要なパラログは ISG15 です。ユビキチン様タンパク質修飾因子は、標的タンパク質に共有結合し、NUB1 依存的に 26S プロテアソームによる分解を誘導します。おそらく生存因子として機能すると考えられます。UBA6 によって結合能が活性化されます。プロテアソームサブユニット β タイプ 9 (PSMB9/LMP2) の発現を促進します。ユビキチン化された I- κ B- α の TNF- α を介したプロテアソーム分解を促進することにより、TNF- α 誘導性および LPS 介在性の自然免疫の中心的メディエーター NF- κ B の活性化を制御する。腎尿細管上皮細胞 (RTEC) における TNF- α 誘導性 p65 核移行に必要。樹状細胞 (DC) 成熟 (未熟樹状細胞が T 細胞応答を開始する完全にコンピテントな抗原提示細胞に分化するプロセス) に関与している可能性がある。長期の *in vitro* 培養および癌において、有糸分裂期を短縮し、細胞周期の前中期段階で MAD2L1 の動原体局在を損なうことにより、有糸分裂不分離および染色体不安定性を媒介する。プロテアソームが飽和または障害を受けている場合、アグレソームの形成に関与している可能性がある。特に多発性嚢胞腎やヒト免疫不全ウイルス (HIV) 関連腎症 (HIVAN) などの腎疾患の際の腎上皮細胞および尿細管細胞において、カスパーゼ依存的にアポトーシスを媒介します。

研究分野

-

画像データ



HepG2 細胞溶解物中のユビキチン D 発現のウェスタン ブロット分析。